

■活動内容

安曇川町藤江区は97世帯、小学生が23名。学校からの帰り道、ほとんどの子どもが「子どもの家」に寄って宿題を済ませて帰っていきます。

異学年で教え合ったり折り紙や絵を描いたり、遊ぶ約束をしたり、交わり合い子どもの居場所となっています。

- ①毎日の学習 学校帰りによって宿題をしていく。
土曜日 希望者
- ②長期休業中もほぼ毎日宿題をすませます。
- ③振り買え休日や長期の休みなどに、一緒にご飯を食べたり遊んだり、時にはお年寄りとも一緒に食事をする
- ④勉強会(認知症、自然のこと)



■団体名	藤江区の「子どもの家」
■参加者	藤江区の小学生
■活動拠点 連絡先	高島市安曇川町藤枝 梅村 頼子 TEL：090-8466-6881

■活動のきっかけ・実現までの経緯

退職をして、地域の福祉推進員に所属し、サロン活動に参加しました。その中で地域のおばあちゃんたちの「宿題をしてもするだけで、なかなかおばあちゃんの言うことは聞かない。間違いやきたない字もそのまま。遊びたい、すぐゲームに走る。何とかならないだろうか」との声に、何か出来ればとの思いを抱いたのが始まりです。

本庄小学校から下校する道筋にある自宅で「子どもの家」を開設し、現在5年目になります。始める前や現在も、常に学校との連携を図っています。



利用者さんの声

【子どもの声】

- ・集中して学習ができる。
- ・分からない時にすぐに聞けるからいい。
- ・宿題やすることなどお互いに確認し合える。

【大人の声】

- ・支援の必要な子とのマンツーマンのかかわりで着実に伸びている。
- ・子どもの見守りに役立つ。
- ・子ども達同士の繋がりが広がる。
- ・協力者ができた。

活動者の声

長年の教職経験を活かして地域で子どもを見守り育んでいきたいと思いました。行儀や挨拶、集中して学習をすること。子ども同士のふれあい、ぶつかり合いを大切に、人と人の関わりを大事にしたいと思います。

子どもの頃に地域の人と関わり、たくさんの体験と心に残る思い出を、と「高島子どもの宿」を実施しました。夏休みには、子ども達が企画した「子どもカフェ」を開き、お年寄りとの交流も図っています。

「大人になったらボランティアをして地域の人に立てるような人になりたい」と思う子どもも出てきたのも嬉しいことです。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

一人では何もできない、協力者がいてくれるから継続できています。子ども達には、押し付けない、気長に付き合うことが大事、学校は学校で、地域では地域での対応があり、教師でいてはいけないと思っています。

自分の特技や好きなことを活かして、楽しみながら子どもを育み、見守る地域の仲間が、各地にも広がればと思っています。